安全と衛生

戸沼岩崎建設株式会社　発行
令和７年　１２月　１５日
歳末号
http://www.tonuma.com/
第２７３号

年　末　ご　挨　拶

師走の忙しい時節となり2025年も残すところ、あと僅かとなりました。

気象条件が厳しくなる中、現場の第一線で活躍されている職員と興伸工業の皆さん、そして協力会社の皆さんには、心より感謝申し上げます。

今年は１月28日に埼玉県でインフラの老朽化（下水道管破損）による道路陥没で貨物車が転落し、懸命な救助作業が行われていましたが、救出できたのが５月に入ってからで３ヶ月間の期間を要しました。これは下水道管の深さが地表から10mと深く、管径が大口径で4.75m、流量も多く有毒ガスも確認されたため、２次災害のリスクも考慮しながらの対策でした。インフラの老朽化は全国各地での問題となっていて対策が進められています。

２月26日に岩手県大船渡市で、３月には岡山県、愛媛県で山林火災が発生しました。大船渡市では、平成以降で国内最大規模の山林火災となり、焼失面積 3,370ヘクタールで完全に沈火するまでに１ヶ月以上かかりました。死者1名、焼失建物が200棟以上、 1,000人以上の避難者が出ています。日本での山林火災の原因は、ほとんどが焚火や野焼き等人間の火の不始末によるもので、乾燥と強風により大規模な山林火災になったと言われています。当社での森林土木工事は山間部での工事が多くありますが、引き続き火気の取り扱いや電気配線の不備に十分注意し、要所に消火器を設置して予防に備えましょう。

そのほかでは、関西万博の開催、コメ価格の高騰、クマ被害、そして日本では初となる女性の高市首相が就任しました。自民党総裁選出時の挨拶で「働いて働いて働いて働いて働いてまいります」の働くを５回繰り返したのが印象に残っています。

今はワークライフバランスが推奨されています。これは仕事と私生活の調和を意味し、仕事での達成感や責任を果たすと同時に、育児介護、趣味、学習、休養、地域活動といった私生活も充実させる働き方・生き方のことです。仕事と生活のどちらか一方を犠牲にするのではなく、両方を充実させることで相互に良い効果を生み出すという考え方です。健康で働きやすい環境を整えて生産性を向上させることを目標にしていますが、意味を取り違えることなく推奨していかなければなりません。

当社では今年、休業災害１件、不休災害１が発生しています。これからの時期は通勤災害も含め、冬季特有の労働災害の発生が想定されます。手順を守り危険を軽視することの無いよう、お互いに声を掛け合い安全作業で現場を進め、無事故・無災害で新しい年をお迎えください。

新しい年が皆様にとって、より良い年でありますよう祈念し年末のご挨拶とさせていただきます。

2025年12月　常務取締役　木村正義

建設業年末年始労働災害防止強調期間（12/1～1/15）

今年も「無事故の歳末　明るい正月」をスローガンに建設業年末年始労働災害防止強調期間が実施されています。

年末年始は長期の休業前の慌ただしい中での気持ちの焦りや休業後に気持ちの切替えが追い付かない中で引き起こされる不安全行動など、労働災害防止に特別な配慮が必要です。しっかり取り組んで参りましょう。

１．経営トップ等による現場点検の実施
２．墜落・転落災害の防止
　高所作業における作業床・手すりの確実な設置、他。
３．建設機械・クレーン等災害の防止
　作業範囲内の立入禁止措置や作業指揮者・誘導者の配置等、挟まれ・巻き込まれ・激突され災害防止対策の徹底、「３・３・３」運動の実施、他。

４．倒壊・崩壊災害の防止
５．交通労働災害の防止
　路面の凍結等によるスリップ事故の防止、他。
６．火災・爆発等災害の防止
７．転倒災害の防止
　転倒危険箇所の表示等、危険の「見える化」の実施。
　４Ｓ活動（整理・整頓・清掃・清潔）等の徹底、他。
８．不安全行動による災害の防止
　「危険予知活動」「ヒヤリハット運動」「ひと声かけ合い運動」等の積極的な実施。「近道・省略行為」等のルール違反行為に関する安全教育の徹底。
９．公衆災害の防止

10．積雪・雪崩災害の防止
11．職業性疾病の防止
　酸素欠乏症や一酸化炭素中毒等の防止対策の徹底、他。
12．化学物質に関する健康障害の防止
　ラベル（絵表示）、ＳＤＳ（安全データシート）等により把握した危険有害情報から化学物質取扱い作業のリスクアセスメントの実施、他。
13．メンタルヘルス対策の推進
14．健康確保対策の推進
　過重労働による健康障害防止対策の推進及び年次有給休暇の取得促進、他。
15．作業所閉所中の対策

土　木　の　日

１１月１８日は「土木の日」です。土木の２文字を分解すると、十一と十八になることと、土木学会の前身である「工学会」の創立が1879年（明治12年）11月18日であることから1987年（昭和62年）に土木学会が制定しました。

当社は毎年、「土木の日」に合わせ作業現場を訪ね、「土木の日」の趣旨を伝え、建設業の役割や建設業で働くことの　意義などを深く問い直すきっかけにしています。

奥尻長浜地区（奥尻町）

渡島東部（函館市）

市営住宅旭岡団地（函館市）

赤川配水池（函館市）

よびたらし地区（木古内町）

川汲（函館市）

ＮＦ日浦（函館市）

ＮＦ塩釜地区（様似町）

ＮＦ和天別（白糠町）